

冬から春へ ～4年生理科・校庭、春の生き物探しから～ その1

今回は、今週の4年生の理科の授業で行った、校庭の春の生き物探しを中心に、いくつか紹介したいと思います。

① 花粉の運ばれ方と花の特ちょう



ツバキの花を観察しました。下に落ちていた、まだ緑色の小さな芽を外側からむいていくと、もうすでに花びらも雄しべ、雌しべもできあがっていましたね。

大きくて赤い目立つ花をつけますが、蜜もたっぷりありました。これには色覚にすぐれた鳥の目をひきつける効果があり、花粉を運んでもらうために蜜も豊富に用意していたのです。2組の時にはちょうどヒヨドリが飛んでいきましたね。「鳥になったつもりで・・・」といいながら、こっそり指をつつこんで蜜をなめとっていた困ったおじさんもいました。



左の写真は、メジロがウメの花蜜を、右はミツマタの蜜をセイヨウミツバチが吸っているところ。きれいな花、甘い香り、おいしい蜜で鳥や昆虫を誘っているのですね。

それに対し、花粉の運搬を動物に頼らず、風に乗せて運ぶ花たちもいます。今の時期、私も悩まされている花粉症の原因となるスギ花粉。煙のように風に舞う花粉を見たことがあるかもしれませんね。



左の写真がスギの花。下に伸びた枝の先に穂のようにたれ下がっているのが雄花。上に伸びた枝の先についているのが雌花です。ツバキやウメなどと比べてみると、全く目立ちません。香りも蜜もありません。そのようなものはスギには必要ないのですね。小さく軽い花粉をたくさん作って、風が吹くと右の写真のように飛んでいきます。

このように、生活のし方が違うと、花など体のつくりにも違いが出てくるのです。また逆に、体のつくり、その特ちょうを観察すると、その生き物がどのような生活をしているのかを推定することも

できるのです。そういった目で生き物を見つめると、また面白いかもしれませんね。